

平成27年度日本小児外科学会
第4回定例理事会議事録

日 時：平成 27 年 9 月 29 日（火） 11：00～16：00

会 場：日本外科学会会議室

出席者：黒田達夫（理事長）、田口智章（理事・会長）、仁尾正記（理事・副会長）、八木 實、漆原直人、米倉竹夫、奥山宏臣、山高篤行、広部誠一（以上理事）、上野 滋、濱田吉則、前田貢作（以上監事）、菱木知郎（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、藤野明浩（庶務副委員長）、浦尾正彦（財務会計副委員長）、木下義晶（庶務委員）、堀口裕輔（事務局）

欠席者：越永従道（副理事長）

議事案件：

議 事：

1. 第4回定例理事会の議事録署名人は、八木 實理事、漆原直人理事とした。

2. 平成27年度第3回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。

3. 報告事項

1) 理事長報告（黒田理事長）

- (1) 九州大学大学院小児外科学分野からの寄贈本「九大小児外科記念会誌」を受領した。
- (2) 厚生労働省医薬食品局からの寄贈本「医薬品・医療機器安全性情報No.325～326」を受領した。
- (3) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol.45No.8～9」を受領した。
- (4) 日本医療機器産業連合会からの寄贈本「医機連ニュース最新号2015 SUMMER」を受領した。
- (5) 日本医学会からのチラシ「第148回日本医学会シンポジウム開催」を受領した。
- (6) 日本小児看護学会からの通信文「理事長退任と新理事長就任の挨拶」を受領した。
- (7) 東京医科歯科大学難治疾患研究所からの寄贈「Annual Report2015」を受領した。
- (8) 厚生労働省医薬食品局血液対策課からの通信文「献血血液の研究開発等での使用に関する指針に基づく公募の実施について」を受領した。
- (9) 日本医学会からの通信文「HPワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引」を受領した。
- (10) 日本胆道学会からの寄贈本「日本胆道学会創立50周年記念誌」を受領した。
- (11) 日本小児循環器学会からの通信文「理事改選の新役員の報告」を受領した。
- (12) 日本医学会からの通信文「第19回日本医学会公開フォーラムの開催について」を受領した。
- (13) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「ニューズレター2015/9月号」を受領した。

- (14) イノベーター・オブ・ザ・イヤー事務局からの通信文「イノベーター・オブ・ザ・イヤー候補者推薦のお願い」を受領した。
- (15) 日本医学会からのDVD「第18回日本医学会公開フォーラム」を受領した。
- (16) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレター NO.169」を受領した。
- (17) 日本専門医機構からの寄贈本「H26年度 専門医に関する情報システム開発等事業報告書」を受領した。
- (18) 外科関連学会協議会からの通信文「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針改正」を受領した。
- (19) 外科関連学会協議会からの通信文「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針賛同学会共同名義 日本心臓血管麻酔学会追加」を受領した。
- (20) 外科関連学会協議会からの通信文「第1回外科医労働環境改善委員会議事録」につき、資料に基づいて報告され、了承された。
- (21) 小児医学研究振興財団からの通信文「平成27年度研究助成支援事業の募集案内について」につき、資料に基づいて報告され、了承された。
- (22) 臓器移植関連学会協議会報告につき、資料に基づいて報告され、了承された。
- (23) 日本専門医機構のヒアリングにつき、黒田理事長より、新たに発足した専門医機構で、サブスペシャルティ領域学会として本学会の専門医制度の現状についてヒアリングがあり、黒田理事長と専門医制度3委員長が出席した。本学会の専門医制度の仕組みや運用につき説明し、今後の方向性について意見交換が行われた。席上、機構側より、初期臨床研修医の期間の経験症例については、専門領域の疾患の特殊性を勘案して稀少疾患、専門性の高い疾患に関しては認めるが、鼠径ヘルニアのように頻度の高い疾患は認めない強い基本姿勢が説明されたことが報告された

2) 総合調整委員会報告について（越永委員長に欠席により黒田理事長）

菱木庶務委員長より、資料に基づき、以下の委員会報告があり、了承された。

- ・ 女性委員委嘱のあり方について
 - ① 総合調整委員会の検討結果として、クォータ制導入に賛成である。
 - ② 本学会がワークライフバランス問題に積極的に取り組んでいくことを宣言する。
 - ③ 規約制度上の制約がある以上、当座の対応としては女性評議員の増数には委嘱評議員枠をあてる以外に方法がない。
 - ④ 女性評議員を増員するための抜本的・長期的な方策については継続審議事項とする。
- ・ 会費値上げの具体的な方策について
 - ① PSI 購読について、1部75ユーロ、400部の購入の案が受け入れてもらえるかどうか、9月末にダブリンで開催される International Symposium on Pediatric Surgical Research に、田口会長と山高理事が理事長名の書簡を携行し PSI 側 (Puri 編集長) と再度交渉することになった。

② 専門医認定事業の収入について、日本専門医機構体制下において、どのような収入になっていくかの状況を慎重に確認しながら継続審議事項とし、2016年の評議員会までに具体的な値上げ方法を決定し承認を得ることを目標とする。

・ 学会の法人格の在り方について

事務局より資料に基づき、一般社団法人とNPO法人の比較について報告があり、次回総合調整委員会に専門家を招聘し、理解を深めた上で審議を継続することになった。

3) 日本小児連絡協議会（四者協）について（田口会長） -

田口会長より資料に基づき、日本小児連絡協議会定例会議の報告がなされ、了承された。また、漆原理事より資料に基づき、第2回地域総合小児医療連絡協議会の報告がなされ、了承された。

4. 審議事項

1) 第52回学術集会開催報告（前田前会長）

前田会長より資料に基づき、第52回学術集会会計報告がなされ、承認された。

2) 第53回学術集会について（田口会長）

田口会長より資料に基づき、プログラム準備状況およびPSI（JSPS Issue）論文投稿要領案が提案され、承認された。

日時：平成28年5月24日（火）、25（水）、26（木）

会場：ヒルトン福岡シーホーク

テーマ：「わ」をもって尊しとなす—小児外科医療の和・輪・倭—

※卒後教育セミナー開催日程は、同時開催のIPEGとの調整により、従来の学術集会終了後の開催ではなく、5月22日（日）および23日（月）午前にて開催予定とする。

なお、抄録集の作成費用がどれほどになるのかについては（AAPSと併せて1冊とするかどうかを含め）、継続審議事項となった。

3) 第54回学術集会について（仁尾副会長）

仁尾副会長より、現在の準備状況が報告され、承認された。

4) 第31回秋季シンポジウムについて（田口会長より代理報告）

田口会長より資料に基づき、プログラム案および準備状況が代理にて報告され、承認された。

5) 庶務委員会報告（菱木委員長）

菱木庶務委員長より、資料に基づき報告がなされ、承認された。

2015年8月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,864名（うち海外3名）、評議員311名、名誉会員53名（うち海外8名）、特別会員70名（うち海外1名）の合計2,298

名である。

6) 財務会計委員会報告（渡井委員長）

渡井委員長より、資料に基づき以下提案がなされ、承認された。

- ・ 学術活動維持のために一般の方（団体を含）より寄付金を受付ける方法につき、日本小児外科学会の規程案および申込書案を提示され、次回理事会までに内容を再確認することとなった。

7) 各種委員会報告および審議事項

(1) 国際・広報委員会報告（黒田理事長）

黒田担当理事より、資料に基づき、以下報告・提案があり承認された。

- ・ データベース委員会より第1回 NCD-小児外科領域会議の資料掲載の依頼があり、会員専用ページに掲載した。
- ・ 10月発行予定の日本小児外科学会雑誌第51巻第6号の「国際学会情報」の内容を変更した。
- ・ 2016年開催の第53回日本小児外科学会学術集会のホームページへのリンクを作成した。
- ・ 国際広報委員会内規改訂について、以下項目案が承認された。
 - ① 国際活動の項目(2) 本委員会の委員長は原則的に世界小児外科学会連合（以下 WOFAPS）への日本小児外科学会代表となり、WOFAPS の council meeting に出席する。対外的な継続性なども勘案し、WOFAPS への本学会代表の任期延長などに関しては理事会で審議・承認する。
 - ② 国際活動の項目(8)削除
 - ③ 支出規定の項目「国際委員長が・・・」→「国際委員長また理事会により選任されたものが」とする。
- ・ PSI のオンライン購読に関する契約書のドラフト（400件の電子媒体購読1件の購読料は年間75ドル）が報告され、継続審議事項となった。
- ・ 本会役員が他学会の役員も兼任しているような学会については、今後の関係性強化へ向けて積極的にホームページ上で相互リンクできるように委員会内で調査検討を開始することとなった。
- ・ ホームページの掲載内容について全面的に見直す予定で、作業の検討にかかっていることが報告された。

(2) 機関誌委員会（奥山理事）

奥山担当理事より、資料に基づき、以下報告・提案があり承認された。

- ・ 査読結果から2年を経過したため論文2編が取り下げとなった。
- ・ 著者より論文の取り下げの申し出が2編有り、了承された。
- ・ 投稿論文に不備が多いため、論文投稿時にチェックリストに従って著者にチェッ

クしてもらい、投稿論文とともに送付することとなった。

- ・ 英文抄録査読について、査読者に和文抄録と英文抄録の内容が一致しているかどうかのチェックのみをし、専門業者に英文校正を依頼することになった。
- ・ 査読者2名の選定法について、辞退者が増えないように、依頼が同じ方に偏らないように均霑化していくことが確認された。
- ・ 論文投稿に関し、電子化の流れと審査の効率化を考え、E-mailの投稿だけとし、メールがどうしても不可の場合はCD, DVD, USBメモリーにデータを入れて郵送する方向で投稿規定変更案が説明され、承認された。なお、投稿既定の改訂については、文言の整合性を整え再提出することとなった。
- ・ 外国人の共著者が非会員の場合に、会員になっていただくようお願いする旨、提案された、検討の結果、海外からの投稿が消極的にならないような方法を再検討することとなった。
- ・ PubMed掲載の条件について、確認したところ、日本小児外科学会雑誌がPubMedへ収録されるのはかなり厳しい状況である。

(3) 保険診療委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 平7月30日、平成28年度診療報酬改定に向けて、下記の通り厚生労働省による学会ヒアリングに参加し、要望項目の中から技術新設の2項目「短期滞在手術等基本料（日帰り手術の場合、小児全身麻酔の場合）」と「小児慢性便秘症管理料」について内容の説明を行った。

開催日時：平成27年7月30日 14時00分～14時30分

開催場所：オランダヒルズ森タワー24階会議室

厚生労働省保険局医療課（2名）：天辰優太主査、松本千寿先進・再生医療特別評価推進係長

日本小児外科学会保険診療委員会（4名）：廣部誠一、川瀬弘一、小高明雄、田中裕次郎

- ・ 平成28年の薬価改正において20ml注射剤の薬価見直しを要望するにあたり、当学会から厚生労働省へ20ml注射剤の医療上の必要性に関する意見書の提出依頼が大塚製薬工場よりあったことが報告され、審議の結果、意見書を提出することが承認された。

(4) 教育委員会（山高担当理事）

山高担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 第31回卒後教育セミナーおよび第6回内視鏡手術セミナーのプログラム案が提案され、承認された。
- ・ 日本小児外科用語集の改訂については、学会独自に進めずに、日本外科学会の用語集が時代に即した内容になっているかを適宜確認していく方針が確認された。

- ・ 専門医・指導医の更新のための教育セミナーと専門医取得にかかわる卒後教育セミナーの必修化を検討していくため、外科専門医との整合性を確認の上、進めていくことが確認された。

(5) 悪性腫瘍委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、資料に基づき以下報告された。

- ・ 8月21日に開催された第3回小児・思春期・若年成人がん関連学会連絡協議会につき、資料に基づき、報告された。
- ・ 2014年次悪性腫瘍登録集計について、解析中であることが報告された。

(6) 学術・先進医療検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 平成 27 年 9 月 15 日、2013 年度新生児外科アンケート結果を中心に過去 20 年間の日本の新生児外科の現状をまとめた以下の論文が PSI に採用され、インターネット公開された。尚、Pediatric Surgery International. Volume 31 Number 10、2015 に掲載される。
- ・ 会員対象のアンケート調査依頼の審査および認可
 - ① 平成 27 年 6 月 2 日に、平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金事業「小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究」における新生児先天性横隔膜ヘルニア研究グループ（代表：臼井規朗先生）から審査依頼のあった「新生児先天性横隔膜ヘルニア（CDH）診療ガイドライン」が、前学術先進医療検討委員会で修正の上、同年 6 月 25 日に委員会で承認され、その修正案を理事会メール再審議にて平成 27 年 9 月 16 日付で承認された。
 - ② 平成27年 8 月 25 日に、平成 26-28 年度厚生労働省科学研究費難治性疾患等克服研究事業・難治性疾患政策研究事業「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究（班長：田口智章先生）」及び「小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究（班長：臼井規朗先生）」におけるリンパ管腫（嚢胞性リンパ管奇形）症例調査の審議依頼が藤野明浩先生からあり、委員会内審議中である。

(7) 倫理・安全管理委員会（漆原担当理事）

漆原担当理事より、以下報告・提案があり承認された。

- ・ 事故調査委員会に関する説明会に関して、報告された。
- ・ 第53回学術集会時に開催する講習会の講師については、田口会長と候補者を選定検討していくこととした。

(8) データベース委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・ NCD運営委員会の報告が資料に基づいてなされ、特にNCDにおけるサイトビジットについて、および横断型研究プロジェクトに関するNCDの方針について、確認された。
- ・ 第1回NCD-小児外科領域会議には、127施設から171名の参加者があり、当日使用した資料はホームページに掲載した。
- ・ NCD小児外科診断マスターを作成したこと報告され、承認された。
- ・ 第2回NCD-小児外科領域会議を以下日程で開催することについて、猪股秋季シンポジウム会長にご内諾いただけていることが報告され、承認された。
日 時：2015年10月31日（土曜日）7：40(7:45)～8：15（調整中）
会 場：くまもと県民交流館パレア（調整中）
議 案：①NCD-P 入力の Q&A (FAQ) ②NCD 新小児外科診断入力マスターの紹介③質疑応答
- ・ NCD小児外科領域アニュアルレポート暫定データ(2011年度、2012年度)が資料に基づき報告され、ホームページへ掲載することが提案され、承認された。
- ・ NCD-P入力マニュアルを作成したことが報告され、承認された。当該マニュアルについてはNCDホームページへ掲載することとなり、そのページへ日本小児外科学会ホームページからリンクできるように設定予定であることが報告された。

(9) 小児救急検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、第53回学術集会時に開催するセミナーの講師については、田口会長と候補者を選定検討していくことが報告され、承認された。

(10) ワークライフバランス検討委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、以下報告があり承認された。

- ・ 第3回ワークライフバランス講演会
第31回秋季シンポジウム・PSJM2015 会期中開催 10月29日（金）19時～20時（予定）※イブニングセミナー開催後
講師：ゼムケンサービス代表取締役 籠田淳子氏
告知方法：学術集会 HP、プログラムにご略歴と抄録ともに掲載される。
- ・ 第4回ワークライフバランス講演会
第32回秋季シンポジウム・PSJM2016 会期中開催することにつき、第32回秋季シンポジウム会長 中野美和子先生にはご承諾いただいた。講師の候補は、日本女医会会長山本續子氏と Calbee 会長で「日本から外科医がいなくなることを憂い行動する会」理事長の松本晃氏が挙げられており、継続審議事項である。
- ・ ロールモデル紹介記事として、第1回、第2回インタビュー記事は既に小児外科学会HPの会員のページに掲載済みであり、第3回インタビュー記事は現在校正中。現在、会員専用のページに掲載されているが、学生や研修医も見られる一般のペー

ジに掲載することが提案され、承認された。

- ・ ポジティブアクションとしてのクオータ制導入について、男女共同参画のポジティブアクションにとどまらず、WLBの適正化に関するポジティブアクションも当委員会の大きな活動目標として継続審議中である。

8) がんの子どもを守る会第 20 回公開シンポジウム後援名義使用許諾依頼（黒田理事長）

黒田理事長より、資料に基づき、がんの子どもを守る会第 20 回公開シンポジウム後援名義使用許諾依頼が届いたことが報告され、後援することが承認された。

9) 日本小児放射線学会からの小児外科専門医更新単位取得学術集会に関する問合わせ（黒田理事長）

黒田理事長より、資料に基づき、依頼内容が報告された、専門医認定委員会にて検討した結果、現状の専門医制度規則では「小児外科関連の学会・研究会・地方会」として既に現状では小児外科専門医更新単位取得学術集会として認定してきているため、現専門医制度規則に列記している小児外科専門医更新単位取得学術集会に追加列記することなく、これまでと同様の対応をしていく方針が上程され、承認された。

ただし、今後同様の小児外科専門医更新単位取得学術集会として認定して欲しいという要望があった場合に、日本専門医機構体制下における検討の余地を維持するため、ある程度制度として当該申請方法を準備検討する必要があるとの提起がなされ、承認された。この点に関しては、専門医認定委員会にて検討依頼をすることとなった。

10) 次回定例理事会日程の確認（黒田理事長）

次回理事会は平成27年10月28日（水）10：00～14：00 くまもと県民交流館パレア10階 会議室7にて開催することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____